

▶ **日本は本当に危ない！その意味分かってますか？**

私の遠戚関係にある國を憂う熱血漢 渡辺洋一さんが書かれた著書の紹介です。ここまで書いた人はいない、という内容です。是非ご一読ください。

▶ **12月16日の選挙結果をどう見ますか？**

17日に書いた記事です。その内容は大筋は常識的なものですが、1点ユニークな分析があります。これは誰も？言っていません。

▶ **ラジオ体操の効用はどのくらいあるの？**

美人がガイドするラジオ体操のお勧めの本がありましたので、読んでみました。新発見もありました。私の昔話も入っています。

▶ **疑似科学の批判者が自らそのミスを犯しているぞ！！**

かなりまともな学者さんが書いた本です。基本的な論理は筋が通っているのですが、肝心の事実確認の部分の検証が不十分で、結論ありきの誤謬論でした。

▶ **ビッグデータ分析で何が出来る？**

ビッグデータ分析が人気になっていますが、やみくもにコンピュータを回しても有効な答えは出てきません、という事例の研究です。

▶ **阿川佐和子さんの「聞く力」はどのくらいあるの？**

ベストセラーのご紹介です。失礼な題をつけてしまいましたが、その結論は「たいしたものです」ということです。

▶ **万引きの1対8対1ってお分かりですか？**

「万引きの文化史」という本のご紹介です。人文科学系の書物で、解説に難渋しました。何が書いてあるのでしょうか？

▶ **有馬記念はどうでしたか？**

今年の有馬記念は非常に面白いレースでした。ですが、配当の方はあまり面白くありませんでしたね。上野流でのレース解説をしてみました。

▶ **上野が日経コンピュータ誌に寄稿！「保守コスト半減の勘所」**

ソフトウェア保守業務を改善・改革すると、大きな利益が生まれますよ！という年来の主張を寄稿しました。そのさわりのご紹介です。

▶ **津曲公二さんの「坂の上の雲」名言集は素晴らしい！！**

明治の偉人たちの言動から現代への学びを得ようという企画ですが、非常に的確な導き書となっています。そのほんのさわりのご紹介です。

【本テーマの目的・ねらい】

目的：

- 日本が本当に危機であることを知っていただく。
- 国家の本性はどういうものであるかを再認識していただく。
- 中国に対する国家戦略を確立すべきであることをご認識いただく。
- どういう人が国を導くべきかを考えていただく。

ねらい：

- 国政を担う選挙にその考えを活かしていただく。
- 日本を守るためにどうすべきかを常日頃考え行動していただく。



渡辺洋一さんの書かれた「若者たちよ！君たちに伝え残したいことがある」（2012年12月9日、K&Kプレス刊）が出版しました。

私は贈呈いただいて一気に読みとおしました。是非、ご一読をお勧めしたい名著です。アマゾンでも購入できるそうです。

渡辺洋一さんは、遠い親せきですが、帝人時代の大先輩であり、帝人、サントリー、ワールドなどで役員をされた国際人です。

引退後長い年月をかけて情報収集・想を練られた大作です。

私より10歳年上ですから、敗戦の時には17歳、戦死もありうるお年でした。

「若いころから祖国愛と平和を希求する思いが強かったと思います」と書いておられます。

「現在の日本は内外の要因で国家存亡の危機にあります」

「景気、原発、TPP、消費税はもちろん大切な問題です。しかし、いま日本人は歴史観や民族の誇りを喪い、日本国そのものが根幹から腐敗し、崩壊寸前にあるのです」

この危機がどこからくるものであるかを丁寧に解説してくださっています。

「日本頑張れ！！」派の私も知らないことがずい分ありました。

15世紀末から始まった欧米の世界侵略は、いかに原住民に残虐・略奪の限りを尽くしたか。

その最後の砦で防戦した日本がいかに酷い目にあつたか。

でも日本が白人たちと戦ったおかげで東南アジアはじめ世界の植民地が独立できた。（日本人は誇りを取り戻せ！）

中国は周辺国に対してたいへんな脅威である。

その典型的例がチベットである。(チベットへの侵略・同化対策については詳細な記述があります)

日本も第2のチベットになる危険性がある。中国はやりかねない、どこかすでにその計画がある。

中国の異常な軍事力の脅威はどれほどか。中国は日本における親中派工作を進めている。民主党政権の一部はそれに巻き込まれている。沖縄基地の県外移転などは中国の思うつぼ。

マスコミがなぜ、中国の横暴を報道しないか。(これは知りませんでした)

日中記者交換協定というものがあり、「日本のマスコミが中国に報道拠点を置ける代わりに、中国に不利な報道をしない」と取り決められている、これに反すると中国から締め出されてしまう、のだそうです。とんでもない不平等協定です。これを廃棄すべきだという渡辺さんの主張です。

偏った報道の例として、以下が示されています。

「尖閣諸島での中国漁船の暴挙に抗議して、2010年10月2日に東京で抗議デモが行われました。2500人を超える多数の日本国民が参加した大規模なもので、渋谷界限は多数の日の丸の旗がひらめきました。ところがこのデモ取材したはずのNHKや民放・新聞各社はこれをまったく報道しませんでした」

「一方、当時、中国において数百人規模の官製デモが日本大使館に押しかけましたが、日本のマスコミはこれについては大々的に報道しました。

これも不平等協定に従った日本側マスコミのお粗末さの一例です」

中国は国内では大々的に反日教育・半日政策をとっている。中学校の教師用歴史指導書要綱には「生徒には日本の帝国主義・軍国主義に対する憎悪と憤怒を持たせるように努めよ」と書かれています。

また中国各地には「抗日戦争記念館」がある。

中国は、共産党一党支配が続く限り、膨張政策を取らざるを得ない。したがって、脅威を感じる隣国としては共産党政権を倒す画策をすべきである。

(なるほど、そのとおりです。いずれ一党独裁の政権は崩壊するという説もありますが待つてはいられない、のです)

中国へのODA援助はもちろん、技術供与や交易一切の取引をやめるべきだ、中国からの総引きあげくらいのことやってもよい。

自社の利益に目がくらんで国益を損なう行為をしてはならない。

交易を中止しても、その影響は短期的にはともかく中長期的には大したことはない。

日本のGDP比で、輸出入とも2%台である。

国民は節度をわきまえ、実力に見合った国家財政とし過剰福祉を諦めよう。そのくらの覚悟をしないと日本は本当に沈没し中国の属国になるぞ!

そういう見識を持った強い政治家の出現が待たれる。

間もなく投票日です。考えて投票しましょう!

渡辺さんの主張のあら筋はこういうことです。大賛成です。

急ぎましたので、たいへん荒っぽいご紹介です。是非原本をお読みください。

なお、本書は来年刊行される「目覚めよ日本」のダイジェスト版のため詳細な論拠や出典の表示はありません。

ご関心ある方は、「目覚めよ日本」をお待ちください。

317	12月16日の選挙結果をどう見ますか?
No.52	2013年1月

【このテーマの目的・ねらい】

目的:

- 12月16日の二つの選挙結果について、なぜそうなったのかを考えてみる。

ねらい:

- 今後の政治参加活動の参考にしていただく。
- 今後の日本の進む道を考えてみる。

皆様は今回の選挙結果をどのようにご覧になりましたか?

事前に「自公で300を超す勢い」という予想が主力新聞に出ました。

そういう報道がされると、二つの面から反動が出る可能性がある、と言われています(いつも言われることです)。

一つは、支持派が安心して投票に行くのを止める影響、もう一つは、反対派が危機意識を持って投票に行く影響、いずれも、振り子は収まる方向に行きます。

穏健派の多い日本人の特性からしても、その可能性が高いと思われます。

ところが、その影響は出なかったようです。民主党の支持層が民主党に投票した率は、比例代表で81.9%、小選挙区で76.7%でした。

この数字は自民党支持層の自民党への投票率、比例代表で81.0%、小選挙区で84.3%に負けています。民主党支持層からもお灸をすえられたということでしょう。

私は、総括的に国民はよく見ているな、という感想です。

マスコミの論調よりも、以下の点で日本のことを考えていると思います。

憲法改正に対する姿勢

マスコミは積極的論調は持っていませんが、改正積極派の自民と維新の会の勝利です。

中国に対する強硬姿勢

マスコミはこの件について中立的報道で、少なくとも強硬対応を煽ってはいません。石原都知事が尖閣諸島を買い取る、と言った時も単なる報道姿勢でした。この点でも自民と石原さんの維新の勝ちです。

原発の拒否反応への是正

マスコミは、原発反対に概ね賛同または迎合しています。これに対して原発反対を前面に出していない自民の勝ちです。

大きな争点の一つである原発に関しては

積極的反対派が不振でした。特に支持基盤の弱い社民党、日本未来の党はもろに影響を受けました。

長期的にはともかく、短期的には原発なしでは日本の産業や社会は成り立たないと判断したのです。

総括して民主党の政策運営に対する落第評価

マスコミもこれほどのダメ出しはしていませんでした。ですが、民主党もできる人は全員当選しています。

- 野田 佳彦 …………… 163,334 票
さすがです。全国第 3 位の得票です。
- 細野 剛志 …………… 156,887 票
- 岡田 克也 …………… 126,679 票
- 玄葉 光一郎 …………… 107,737 票
- 長妻 昭 …………… 100,821 票
- 古川 元久 …………… 94,058 票
- 枝野 幸男 …………… 93,585 票
- 前原 誠司 …………… 72,170 票

この面でもよく見えていますね。

石破さんが「(大勝は)自民党への支持の強さというより民主党への拒否の結果と判断すべき」と言っていました。そのとおりです。

評論家はそう言っていますが、当事者がそう思っているということは結構なことだと思います。

自民党若手のホープ小泉進次郎さんは、全国第 2 位の得票数 184,360 票でした。

民主党政権 3 年余の反省を踏まえ、今後の政治のあり方として、開票当日のテレビでこう言っていました。

「やると言っていたことをやらなくてはいけない。
できないことをやると言ってはいけない
やらないと言っていたことをやってはいけない」

これも結構な今後への自戒です。

余談ですが、石破さんと小泉さんが今後の自民党のリーダーでしょうね。石破さんには日本の守り、小泉さんには

父親バリのリーダーシップを期待されているのではないのでしょうか。

どうしてこんな激しい結果が出たのでしょうか。それを分析してみました。

投票率が全国平均で 59% と極めて低い、2009 年の前回選挙と比較して 10% も低かったのです。

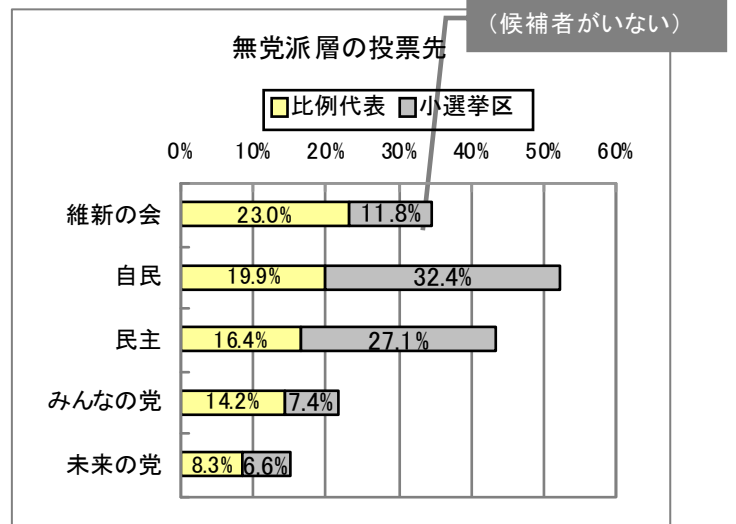
ということは、無党派層の浮動票が動かなかった、ということです。ここに鍵があります。

【無党派層の投票先】

無党派層の投票先は、共同通信社の出口調査によれば以下のようになっています。

この出口調査は、全国 300 の小選挙区でその選挙区の縮図となるような投票所を選んで男女各 15 万人を選んで聞き取り調査をしているのです。

当日の開票速報で、この出口調査の結果に基づく各党の当選予想を示していましたが当たっていましたね。



これを見れば維新の会が最も無党派層に支持されているのです。

維新の会は、経験不足で民主の二の舞の懸念もありますが、橋下さんと石原さんなら信頼できると思われたのでしょうね。

無党派層でも高齢者は、日本の現状や将来に対して危機感を持っていますので、その人たちは棄権せずに自分たちの考えに従って投票しました。

小選挙区で小政党の獲得率が低いのは、その選挙区に候補者がいないからで、自民党か民主党に流れたのです。

もし仮に、小選挙区にそれなりの候補者がいれば、自民圧勝を阻止できたかもしれません。

【投票率の地域差——棄権の原因】

投票率が全国平均で 10% 下がりましたが、下がり方には大きな傾向があります。

もともとは都市部の投票率は低く、非都市部の投票率が高いという傾向がありました。

非都市部が自民党の票田になっていたのです。

前回選挙と比べてどの県の投票率が下がったのかを見えます。

下がった県のランキング		
富山	16.86 %	下がって 56.89 %
北海道	14.91	58.74
鹿児島	14.72	56.78
青森	14.33	54.19
福島	13.97	58.85
新潟	13.75	59.66
石川	13.75	61.92
高知	13.70	53.94
宮崎	13.41	55.69
岡山	13.30	55.27

ご覧のようにほとんどが代表的非都市部です。平均を上回っているのは新潟と石川だけです。



非都市部の投票率が下がったということは、従来の考え方なら、総体的には自民党不利のはずです。ところが逆の結果です。

あまり下がらなかった県のランキング		
東京	4.30 %	下がって 61.67 %
千葉	6.38	58.49
奈良	8.34	63.13
兵庫	8.37	58.59
神奈川	8.40	59.86
大阪	8.42	58.37
茨城	8.76	58.84
埼玉	8.85	57.40
滋賀	8.90	61.75
沖縄	8.94	56.01
静岡	9.06	61.75
大分	9.90	62.17
京都	9.94	58.26

東京は、知事選との相乗効果で例外としてもほとんどが都市生活者の県です。いくつかの件で平均を上回っています。

以上の傾向は、こう考えるといいのではないのでしょうか。

従来からの地方の自民党支持派が前回選挙で、閉塞感を打破するために「いいこと」を言っていた民主党に投票してみた。

だけど、それは裏切られた、もう政治に期待はできない、と考えた。

あるいは、気を取り直して考えてみた。でも各党の主張は一長一短でどこにするか、考える筋が見つからなかった。

維新の会も自分たちにはピンとこないし候補者もいない。そこで棄権ということになった。

都市生活者は、生活がたいへんで何とかしないと不安、情報も豊富だし、それなりに考えることもできる、民主

党はダメだ、民主党ストップのためにも投票しなければ、ということになった。

日本未来の党の惨敗も、日本人の見識を示したと思います。そんな促成の党が大きな支持を受けるほど、国民は甘くない、ということではないでしょうか。（得票数はそれなりにありますから、当選者数の少ないのは選挙制度のせいもありますが）

逆に言えば、日本人はやはり保守的なのだ、ということかもしれません。

都知事選は猪瀬氏の圧勝でした。これは、石原前知事の後継として認められたということ以外の何ものでもないでしょう。

石原さんの尖閣諸島購入の意向表明とか、日本を守ろうという姿勢が評価されたのでしょうか。

12月17日現在の分析はこんなところですよ。またもう少し考えてみます。ご意見ください。

12月13日追記-----

今朝の朝日新聞に世論調査結果が載っていました。

政権交代はよかった57%、（よくなかったは16%）でも3分の2を超えたのはよくなかった43%（よかったは35%）が大勢です。そうですね。

自民大勝の原因は
自民の政策を支持した・・・はわずか7%
民主政権に失望・・・が81% でした。
石破さんの言われたことより極端ですね。

318	ラジオ体操の効用はどのくらいあるの？
No.52	2013年1月

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- ラジオ体操の有効性を見直していただく。
- いろいろ知らないことがあるものだ、ということを知っていただく。

ねらい：

- ラジオ体操に参加して健康を増進していただく。
- 女性の場合は美容も向上していただく。

私の毎朝のジョギングの行き先は、6時半頃の西大井公園です。

そこでは、ラジオ体操を多くの方がしています。ご承知でしょうが、ラジオは6時半から40分までラジオ体操第1と第2をガイドしています。

参加者はほとんどが中高年というより高齢者です。男女比では半々か多少男性が多いくらいです。

おしゃべりしながら適当にやっている人、リハビリ中なのではないでしょうか、手の振りもままならないご老人、普通に取り組んでいる人などです。



この度、「実はスゴイ! 大人のラジオ体操」という本が、講談社から出されたので買ってみました。

中村格子さんという整形外科医・スポーツドクターが著者で秋山エリカさんという東京女子体育大学教授が監修しています。

同大学新体操競技部の美女がモデルになってカラー写真で体操のポイントを示してくれています。

以下のようなことが書かれていました。

ラジオ体操第1は、昭和26年25人の専門家の研究によって制定された。

以下の特徴がある。

- 必要な運動が13のユニットに凝縮されている。
- 3分10秒で効率よく全身運動ができる。
- 有酸素運動と無酸素運動が同時にできる。
- 時間当たりのカロリー消費量が多い。
- すべての動きが、ケガをしない安全な動きで作られている。
- 性別・年齢を問わず、幅広く実施可能である。
- 誰もがやったことがあるが、本来の形でできている人は少ない。
- 本来の形できちんとやれば、非常に多くの効果が得られる。

特に女性の場合。

- 脂肪が燃焼する。
- 美脚・小尻になる。
- 二の腕が引き締まる。
- バストアップする。
- 姿勢がよくなる。
- 美肌になる。
- 肩こり・腰痛が改善される。
- 眠りの質が改善される。
- 目覚めがよくなる。
- いらいらしくなくなる。



(どうもこの本は、美容に関心のある若い女性をターゲットに書かれたようです)

13の体操ユニットの中でも、2番目と12番目に行われる「腕を振って足を曲げ伸ばす運動」が目玉で、大きな効果がある。

ということです。たしかに、うろ覚えでいい加減にやっている人が多いようです。

私は、30年ほど前に、ある会社の活性化運動のお手伝いをしました。その対策の一つが朝礼の導入と並んでラジオ体操でした。

全員が朝礼前に自席の近くで体操するのですが、女子社員のほとんどは「全く」いい加減でした。

タイトめの制服でしたから、まじめにやると体のいろいろが露わになってしまいます。

まあ仕方ないか、とあえて指導はしませんでした。

そういう体操では時間の無駄ですね。それでも、首を回す運動などは効果があったでしょう。

今は、私は自己流の体操をしながら、他の人のラジオ体操を観察しています。

すると、多くの人たちが体操自体にはあまり目的意識がなく、漫然と流しているのに対して、60代らしき女性二人は力を入れて体操しています。

顔は残念ながら年相応なのですが、体はとても若いのです。特に体の前後屈は魅力的です。この本の著者中村さんの言うとおりでですね。

こういう観察ができるのも、ジョギングの楽しみの一つです。

私は土曜日は品川中央公園まで行きます。ここにはトラックがあって好きな人たちが思い思いで走っています。

時々、美女が登場するのですが、そういう人たちはなぜか長続きしません。非常に残念なことです。

そういうことでは何をやっても痩せないし美しくもなれないでしょう。ですが個人的には、「今のままで十分魅力的ですよ」と言いたい人がほとんどです。

痩せるか美しくなるか、目的を持ったのなら、その目的を重視して、走ることがたいへんでも継続しなければなりませんね。「継続は力なり」です。

話を戻して、ラジオ体操は極めて有効なようですから、体を維持・強化したい方はラジオ体操をされたらいいがですか。

この本にはDVDもついていますが、自分1人で、取り組むのは長続きしません。是非、近所のラジオ体操集会を見つけてください。そこまで歩いて行くことも運動になりますから。

私もラジオ体操に参加しようかと考えています。

319	疑似科学の批判者が自らそのミスを犯しているぞ!!
No.52	2013年1月

【このテーマの目的・ねらい】

目的:

- 科学と疑似科学の定義を知っていただく。
- 何が疑似科学であると思われるかを確認いただく。
- 血液型性格学が疑似科学であることは誤りである根拠を知っていただく。

ねらい:

- 今後、科学と疑似科学の区分に留意していただく。(一般の社会生活ではあまり有効な区分と思えません)

菊池聡さんという信州大学教授（専門は認知心理学）が、書かれた「なぜ疑似科学を信じるのか」を読んでみました。



疑似科学の例として、血液型性格論が挙げられていたからです。どんな論点で否定するのだろうかという興味があったのです。

菊池さんは学者らしく、疑似科学の定義をしています。

疑似科学の前に科学の条件はこういうものである。

- 1) 第1の特徴は「対象」である。
科学では自然や人間の行動といった客観的に観察可能なものを扱う。
- 2) 第2の特徴は「方法」である。
理論だけでなく、実験や観測といった実証的方法を重視する。
- 3) 第3の特徴は「知の姿勢」である。
実験や観察データを公平に解釈して、主観や価値観を排して客観的な事実や法則を追求しようとする。

疑似科学も、同じような外観を備えている。しかし違うのは「方法」と「知の姿勢」の内実である。

それは「反証可能性」である。科学ではある仮説を証明する場合、「確証（検証）」と「反証」とが行われる。

「確証（検証）」とは、その仮説に適合する証拠によって仮説の正しさを確認すること、たとえば、「万有引力の法則は、リンゴの落下で確証された」というもの。

「反証」は、誤りを証拠で示すことで、「天動説は惑星の観測データによって半焼された」というもの。

反証不能なものは科学ではない。たとえば、「明日は晴れるか曇るか雨か雪か、いずれかが起きる」これは常に正しいが反証ができない。

科学は、証拠によって間違いが証明できる見込みがなければならぬ。

疑似科学では統計的に正しいと主張することが、サンプリングの方法の説明がなく、したがって反証ができない。

都合のよいデータのみを示して自説の正しさを主張している。というのです。

典型的な疑似科学の例として、「血液型性格学」が挙げられています。

血液型性格学では、血液型と思考特性の関係があることを示しているが、実験方法に客観性がなく、別の学者が同じような実験をすると、その両者には関係が認められないというのです。

この点はたしかにその誹りは免れない気がします。

しかし、職業と血液型の関係については、血液型と性格との関係論の元祖である能見正比古氏はきちんと客観性を示しています。

たとえば、歴代の横綱・大関と血液型の関係です。

皆様は横綱・大関は、何型の血液型が多いと思いますか？ A型なのです。この関係は統計検定をしてはつきり有意である、となっています。なぜかは分からないけれど、何らかの因果関係がある、ということです。そこから先の因果関係については推定となります。

菊池氏は、この点に関してこう述べています。政治家やスポーツ選手などと血液型の関係については、衆議院議員では、とか参議院議員ではとか、自民党議員では、社会党議員ではとか、自分に都合のよい部分を切り出して証明に使っている。

これは、菊池氏の勉強不足です。サンプリング方法に恣意性があるという前提（先入観）で能見説を十把一からげにして切り捨てています。

横綱・大関の場合は、サンプリングではなく、戦後からその時までの全横綱・大関が対象なのです。それを確認もしないで、結論を導いているのは明らかに科学的ではありません。

因みに、横綱・大関以外の場合の職業と血液型の関係でも、客観性のある場合が多数あるようです。

菊池氏の「科学的」の定義からすれば、「いい加減なサンプリングの方法だから科学ではない」という主張は、すぐに反論可能で誤りであることが判明します。

したがって、血液型性格学は疑似科学であるという菊池説は誤っています。ですが菊池説は疑似科学ではありません。

菊池氏が疑似科学の例として血液型性格学を取りあげたのは失敗です。墓穴を掘っています。

菊池氏が挙げている疑似科学の他の例は、宏観異常現象（異常の観察から来る地震予知）、チャネリング、UFO、輪廻転生、などです。

占星術は疑似科学にもならないようです。「超常現象一般を科学ではない」と言っていないのは評価できます。私はその存在を信じています。

しかしよく考えてみると、疑似科学であるかどうかよりも、その説が正しいかどうかの方が実用的には重要ですね。

大事なところでミスもありましたが、この本には、よいところがあります。それは、書の構成が明確で、どこに何が書いてあるかがすぐに分かることです。

書評を書く立場としてはたいへん助かります。今後はますます人文科学者の本は読まないことにします。

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- 以下を再認識していただく。
 - ビッグデータ分析でも「目的・ねらい」の明確化が重要である、
 - やみくもにコンピュータを回しても何かいいことが見つかるわけではない

ねらい

- 日常生活でさらに「目的・ねらい」を意識するようになっていただく。

12月22日の朝日新聞に以下の記事が1面に載っていました。1面ということ「どうだ！」ということなのでしょう。

日本未来の党が結成を発表した11月27日から12月15日の投票日前日までの19日間、衆院選にからんだツイッターのつぶやき460万件を分析しました。

その結果、自民党に関するものが151万件
民主党に関するものが100万件だった。

自民党の場合、前向きな内容（「支持する」「期待する」など）が後ろ向きの内容（「駄目だ」「嫌だ」など）よりも多い日が19日中2日だった。

民主党の場合、それは1日だけだった。

日によってこの動きが変化がある（そのグラフが示されていた）。

まだまだこれから解析するのですが、この範囲だと「だからどうなんだ」です。自民優勢は世論調査でも出ていました。

ツイッターの声の分析はリアルタイムでできることが有利ですが、対象が偏っています。
日本国民の縮図とはなりにくいのです。

性別・年齢・地域などの属性が分かれば、リアルタイムで層別した分析は選挙戦の予想に使えるかもしれませんが、層別分析はできませんしね。

ビッグデータの分析は仮説がなければ、自動的に分析結果が出てくるわけではありません。

この場合だと、

前向きなコメントは何についてそう言っているのか、
後ろ向きなコメントは何についてそう言っているのか、
を解析することが第一歩でしょう。

おそらくそれは登場する単語の集計でできるでしょう。しかし、お分かりのように同じことについて賛否両論あるはずですから、それがマクロ的に分かっただけでは具体的な戦略・戦術に結び付きません。
発言者の層別ができなければなおさらです。

ということで、
この分析では有効な仮説の立てようないようです。

仮説がなければ検証もできません。

朝日新聞は1面で気負って載せてみましたけれど、「だからどうなの？」で終りのようです。

ビッグデータの分析では、「目的・ねらい」が重要です。
「お客様の属性と結び付けていつ何と何が組み合わせで買われているかを見つけだして（目的）、それに対応した品揃え・陳列・価格設定をしよう（ねらい）」とか、

家族構成と消費支出の傾向を分析して（目的）、有効な販促策を見つけよう（ねらい）、とかです。

朝日新聞の分析では、「ねらい」がはっきりしていないのです。ねらいを考えたら、この分析をしてもダメだと分かったのではないのでしょうか。

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- 阿川佐和子さんの「聞く力」に興味・関心を持っていただく。
- 当社の研修のことも少し知っていただく。

ねらい

- 阿川佐和子さんの「聞く力」を読んでいただく。
- 当社の研修に少しでも関心を持っていただく。

阿川佐和子さんの「聞く力」を読んでみました。



私はお恥ずかしながら阿川弘之さんは知っていましたが、阿川佐和子さんのことは全く知りませんでした。

なぜこの本を買ったかという
と、この本がたいへんなベストセラーになっているらしいと知って、当社のヒアリングの研修の参考になるかもしれないと思ったからです。

読んでみて、とにかく楽しい本でした。

「私はそんな本を書くなるとてもできない」と編集者に断った「謙遜さ」から始まって、次から次と出てくる話が、豊富な経験に基づいていて、軽妙洒脱な語り口でとても面白いのです。

阿川さんの「聞く力」はたいへんなものです。

「ためになる」なんてことは忘れてしまいます。
提供される題材に笑ったり泣いたりすることができます。
作家としても素晴らしい方です。

阿川さんは間もなく60歳ですが、文章を読んでいるととても若くて魅力的です。まだ結婚願望もあるようです。

是非楽しい読み物としての一読をお勧めします。

本書の構成はこうなっています。

章立て

- I 聞き上手とは…………… 11項目
- II 聞く醍醐味…………… 9項目
- III 話しやすい聞き方…… 15項目

たくさんのエピソードの中から一つ選んでみました。
「知ったかぶりをしない」の中の一節です。

これが一番感激的というわけではありません。
一番短く完結しているからです。

巨人軍の若手だった頃の松井秀喜選手へのインタビューも同じ不安を抱えたまま、立ち向かいました。野球、よくわからないんだけどなあ。でもそんなに怖そうな人じゃないし、私よりずっと若いし、なんとかなるかな。

例によって、細かい試合の経緯や技術的な話はそこそこに、松井先週の子供時代や高校球児時代の話の順を追って伺っていきました。そのとき、何かの拍子につき合っていた女の子の話になりました。

「どんな出会いだっただですか」
「彼女の幼なじみが、星陵のライバルだった金沢高校のエースで……」
「それはバッテリーで？」

そこらへんで、あたりの空気がどうも怪しくなっていることに気づきました。私側のインタビューチームが、なにやらオタオタし始めた。あれ？ なんかおかしいこと、私、聞いた？ 異変に気付いた私が、あたりをキョロキョロすると、松井選手が、

「……ピッチャーです、エースって（笑）」
「あ、いや、ハハハハ。そうか、エースってピッチャーのことだけを言うのか」

私はてっきり、「エース」と言えば、そのチームのスター選手のことを総じて呼ぶのだとばかり思っていたのです。

「優秀なバッテリーは、エースって呼ばれないの？」

その瞬間、それまでなんとかごまかしながら続けていた数々の野球に関する質問が、どれも浅知恵だったことがバレてしまいました。でも、松井選手は、それは優しい心の持ち主らしく、そんなインタビュアーに腹を立てることもなく、苦笑いをしながらじっと耐えてくださったのです。

今でも、大リーグで活躍する松井選手の姿を見るたびに、「エース」という言葉が頭に蘇り、胸がチクチク痛みます。



阿川さんはかなりのスポーツレディなのですが、観戦は嫌いで野球のこともほとんど知らなかったのです。

松井秀喜選手以外に登場する主な有名人は以下のとおりで、いずれもたいへん興味深いものです。

(順不同、敬称略)

- 北野武、橋下龍太郎夫人、井上ひさし、
- 野村克也監督夫妻、若乃花・貴乃花兄弟・花田憲子、
- 室伏広治、鶴瓶、柳谷小さん
- デーモン閣下、西村雅彦、渡部篤郎

阿川さんのインタビューは、もちろんそれぞれのインタビューでの当所目的はありますが、結果的に有意義な（読者・視聴者が喜ぶ）結果が得られればよいのです。

ところが、私たちの仕事でのインタビューは、必ず当初目的を達成しなければなりません。

その意味でインタビューの目的が少し異なりますが、阿川さんの言われる35項目を多少読みかえれば私たちの仕事のインタビューへのガイドとなります。

特に有効そうな10項目を選んでみました。

- 面白そうに聞く
- 「あれ？」と思ったことを聞く
- 素朴な質問を大切に
- 観察を生かす
- 相づちの極意
- 上っ面な受け答えをしない
- 知ったかぶりをしない
- 聞きにくい話を突っ込むには
- 先入観にとらわれない
- 最後まで諦めない

この10項目は、当社の研修の「ヒアリングの達人を目指す価値目標訓練」の「ヒアリングの達人10か条」の補足版として使う予定です。

ヒアリングの達人がインタビューする時も、知らない業務だったら事前に勉強します。間違えてもベーシックな単語は「それは何ですか」と聞いてはなりません。その覚悟で勉強します。

それでも知らない言葉が出てきたら「知ったかぶりをしない」で素直に聞きましよう、というようにガイドしています。

なお、この研修を含む「達人シリーズ」全体については、別項「達人シリーズ」の研修が開発されました！！
http://uenorio.blogspot.jp/2012/12/blog-post_1.html
をご参照ください。

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- 万引きについてあらためて考えていただく。
- 万引きの歴史について考えていただく。
- 万引きが欧米の過去において極刑だったことを知っていただく。
- 万引きが無くなりそうにないことを考えていただく。

ねらい：

- 何かを考えていただく（不明です）。

レイチェル・シュタイアという米国の大学の先生が書かれた「万引きの文化史」という本を読みました。



万引きの語源は、万から一つを抜くという説と間引くからなまったという説とがあるらしいですが、詳細は不明のようです。

万引きを研究しているのは、被害者である小売業者くらいのものだと思っていましたら、研究している人がいるのですね。

話が多岐に亘っていますので、システム企画研修社が提唱している企画書の項目5W2Hを少し変形してご紹介してみます。

1. Why なぜ万引きをするのか

万引きの動機・目的は単純ではないようです。

単なる遊び（若年層）

仲間からの圧力（若年層）

経済的理由

不満や鬱屈した気分のはけ口

スリルを求める冒険的行為

病気

「大金持ちの女は不安感や憂鬱な気分に乗われそうになると、とにかく買い物しまくり、ときには一つか二つ万引きをする。

それほど金のない女は窃盗症になり、自分に足りないと思うものを盗むことで、不安感や欠乏症を解消しようとする。

そして貧しい女は、単に家族に必要な物—食品や衣類などの必需品—を万引きする。

貧困の猛威をいくらかでも和らげようと、ときに余分な物も万引きする」（1990年ルイーズ・カプラン）

2. Where どこで万引きは行われるのか

（以下は主としてあとがきでの情報）

小売業

日本の場合、破損等を含むロス率は売上高の1.04%（他国と比較すると率はそれほど高くないが、損失総額は世界2位）
その内、万引きは構成比1位で被害額は4,500億円以上。小売業の利益は数%なので万引き防止は大課題。

書店

日本の場合、ロス率は1.91%、損失額は262億円
その内、74%（194億円）が万引き被害

3. What と How 万引き防止するための課題と対策

この項は、本来は万引きを成功させるための課題と対策でなければならないのですが、反社会的な表現となりますので、裏返しの防止対策としました。

万引きを摘発する監視員であるLPエージェント向けのガイドがこうなっている。（1992年にどこかで発表されたもののようです）

- 1) 容疑者が商品に近づくのを確認する
当りをつけているか挙動不審者をマークしていて。
- 2) 容疑者が商品を取ったことを確認する。
- 3) 容疑者が商品をどこに隠したか確認する。
- 4) 容疑者から目を離さずに監視を続け、
商品をどこかに戻していないか確認する。
- 5) 容疑者がその商品の代金を支払わなかったことを確認する。
- 6) 質問をするために声をかけるのは容疑者が店を出てからにする。

5) ままで、万引きであることは確定ですが、ヴァージニア州では3)段階で相手に接触してよい、ということになっている、

シアーズやメーシーズでは5段階まで確認する、ウォルマートでは4)までで追求するようになっている、のだそうです。

安売りスーパーではそんなに手間をかけてはいられませんものね。

万引き防止対策は以下のとおりです。

- 極刑による抑止
- 犯人に対する損害賠償請求による抑止または損害補てん
- 警備員の配置
- 陳列方法変更（高級品のガラスショーケース収納など）
- 防犯タグ（精算していないと出口で警報音が鳴るタグ）
（これが絶対的対策と思われたが、そのタグを切ったり、ラジオ波とセンサータグを遮断する素材を裏打ちしたブースターバッグの使用などで破られる）
- ビデオ監視カメラ
- 高性能なCCTVカメラ
- インクタグ（タグをはがそうとするとインクが飛び出す）
- サプリミナルメッセージ（潜在意識に思いとどまることを訴える）

- ・ アグレッシブホスピタリティ（積極的にお客様に声かけする）

これらの対策にはかなりの費用がかかりますが、万引き被害よりも小さいということでしょう。

そういえば、保険はないのです。損害が証明できにくいでしょうからね。

4. When 万引きの歴史

窃盗の元祖はイブ

窃盗は人類の生誕から付いて回っています。動物は種族の維持（生存）のためにしか物を盗まないそうです。初めは人類もそうだったのでしょ。その後、複雑な目的で窃盗が行われるようになりました。

16世紀後半、ロンドンでは多くの商店が誕生した。その時、流浪の窃盗団も誕生した。

その後、一般の大衆も万引きに参加するようになり、後掲の6. で述べるような極刑が課されてもなくなることはなかった。

19世紀パリをはじめ百貨店が次々と登場し女性の疾患としての窃盗症が増加した。スカートが大きくふくらませたペチコートや普通のドレスの上に付けるキックと呼ばれる短いオーバースカートに細工を施し大きなポケット代わりとした。

その後は、大規模店舗の増大とともに万引きも増大した。

5. Who 誰が万引きをするのか

冒頭の「1対8対1」ですが、あるLPエージェントの説として紹介されていました。

1割	絶対に万引きをしない人
8割	チャンスがあれば万引きする人
1割	必ず万引きする人

つまり、誰でも万引きをする誘惑にかられるということです。

全米万引き防止協会の発表によると、万引き犯罪の検挙者数は2700万人にのぼり、総人口の9%を占める。

2001年の4万人の米国人を対象にした調査では、万引き経験のある人は11%で、10%の人々が生涯万引きをやめられないと答えた。

上掲の目的からして、いろいろな人が万引きに手を染めます。

女性

伝統的に万引き犯は女性の方が多いとされています。美しく飾りたいという欲求からも、子供に「パン」を与えたいという欲求からもそうなるでしょうね。

デパートやディスカウントショップで化粧品、衣料品、宝飾品、香水を盗む。

2001年米国30歳の大人気女優ウィノナ・ライダーは百貨店でデザイナーブランドの衣類5500ドルを万引きした。

男性

ホームセンター、工具店で。電子機器、テレビ、電動工具を盗む。

かのルソーも窃盗を行ったことを自著「告白」で述べている。

「こうして私は、何かを欲すると、ごまかし、嘘をつき、しまいには盗むことを学んだのだが、それも初めて盗むまでは考えてもみななかったことである。しかしその後は、一度身についた盗癖から脱することはできなかった」

それが高じて来ると、万引き依存症になる。

6. How Much 万引きの費用

費用（負担、処罰）

今でもアラブ社会の一部では窃盗犯は手首切断刑が行われる。

中世以降の英国では親指にVの字の焼印が入れられた。

1699年に制定された英国法律で窃盗犯は絞首刑に処せられることになり多くの処刑が行われた。

1771年、夫を海軍に徴収されて貧窮した女性が赤ん坊に着せるリネンを盗んで絞首刑に処された。（とんでもなく可哀そうなことですね！！）

それでも窃盗は減らなかった。

1821年は絞首刑に処された万引き犯が16人いた。この法律は1832年ようやく廃止された。

植民地時代の米国では奴隷による万引きは盗品の価値にかかわらず厳しく罰せられた。

北部で18歳の混血奴隷が女主人に衣服を与えてもらえなかったために身にまとうさやかな衣料品とハンカチなどを盗んだとき、女主人の被害額に見合う金額で売り払われた。

その罪で他の州では即座に絞首刑だった。

フランスでは、フランス革命の前には、食品を盗んで死刑に処せられた者は全犯罪者の5%だったが、1790年代には15%になっていた。

現代以前には、窃盗を防止することが社会秩序の維持にとってそれだけ重要だったということです。

効果（稼ぎ）

万引きで生計を立てるプロもいたようですが、それは例外で、多くは、1. 項の「万引きの目的」が達成できるということでしょう。

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- たまには違う話題で気分転換していただく？
- 上野の雑談を聞いていただく。

ねらい：

- あまり役に立たないですね。

このブログを読んでいただいている方がたの中にも競馬ファンはおられるのではないのでしょうか。

私は年数は長いのですが、ほとんど毎週少額で仮説検証を楽しんでいるレベルです。

今回のレースは面白い展開でしたね。いろいろ勉強になります。

優勝のゴールドシップは、前半最後尾くらいに控えていて、中盤から少しずつ前へ出て終盤は一気に出てゴールした時には2着を1馬身以上離していました。

他の馬も必死で走っている時に追い上げて抜き去るといことは何たる強さかと驚嘆しました。

人間の走るレースではこんな激しいことはありません。マラソンで最後尾から抜けることは見たことがないでしょう？「バリキがある」と言うくらいですから馬は違うのでしょうかね。

こんなに強い馬ならいつも勝つかというとそうでもありません。素質や筋力等で勝負が決まるのなら、勝つ馬は自明ということで「ケイバ」は面白くありません。

その日のコンディションで結果が違ってきます。だから、調教師や騎手との相性・チームワークが重要なですね。

人間への教訓としては、「やる気」によって結果は大きく違ってくる」ということかと思いました。

箱根駅伝で「山の神」と言われた東洋大学の柏原でも、3年の時にスランプで成績不振だったそうです。

スランプを抜け出したのは、東日本大震災で故郷が悲惨な目に遭ったのを見て、「自分も頑張らなければ！」
「自分がたいへんなのは1時間強だけではないか」
と思ったからなのだそうです。

見事4年の時には自分としての過去最高を記録して東洋大学の総合優勝奪還に貢献しました。

2着のオーシャンブルーは、サンケイスポーツ紙の人気指数は0、スピード指数是最悪の次、予想者のマークはほとんど付いていませんでした。

人気とか予想とかは当てにならないものです。当てになったら競馬で損をする人はいなくなるのですものね。

人間社会への教訓としては、「他人の評価は当てにする

な、自分で確認しろ」ということでしょうか。

3着が、これまた物語がありました。走る実力はかなりあるルーラーシップですが、スタートで立ち上がってしまい5馬身ほど、出遅れてしまいました。

知りませんでした、スタートのミスは4戦連続なのですって。そのため、予想者は誰も◎や○を付けていませんでした。この点は予想者も読んでいましたね。

それでも最後尾から追い上げてあわや1着か、というところまで行ったのですから凄いものです。

教訓は、

「癖がある者でも、それを克服する個性・能力があれば、人生やっつけていける」ということでしょうかね。

そんなことを考えさせられる素晴らしい本年掉尾のレースでした。

因みに私の成績は、3着までの3頭すべてが当たりましたがワイドでしたので、36%プラスになっただけでした。



それでも、来年に期待が繋がる成果でした。
来年は良い年にしたいですね。

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- ソフトウェア保守業務に関心を持っていただく。
- ソフトウェア保守業務の現状を知っていただく。
- ソフトウェア保守業務は大幅に改善可能であることを知っていただく。
- ソフトウェア保守業務改善・改革の対策を概括していただく。
- 上野が苦勞しているのだな、ということを知っていただく。

ねらい

- 日経コンピュータ誌を読んでいただく。
- ソフトウェア保守業務を改善しようかと思っただけ。
- 「この対策」を実施してみようかと思っただけ。

日経コンピュータ誌2013年1月10日号に

上野則男寄稿の

保守コスト半減の勘所

目的・ねらいの明確化が必須

ツール活用で作業を自動化

が掲載されます。

私の所属する会社のグループは、ソフトウェア保守業務の経営戦略的な重要性を事あるごとに訴えてきました。

その主張を一言で言えば、「ソフトウェア保守業務の経営貢献を高めましょう！！」です。

今や新規開発は一部の業種を除いて、行われません。開発の一部であるシステム再構築も、その難易度・コスト制約の点から、行われることは稀です。

ところがビジネスは生きていて変化・成長しますから、システムに対する要求もずいぶんあるはず。それを受けるのは、ソフトウェア保守でなければならないのです。

ところが、現在の保守の体制あるいは資産が、その要求に応えられるようになっていません。

そこを改善すべきなのです。

改善はこうすればよい！！と訴え続けてきました。しかし、まだまだ本格的に改善に取り組もうという企業は少数派です。

今回の日経コンピュータ誌の寄稿は、そのさわりです。この寄稿の主な内容をご紹介します。

1. ソフトウェア保守業務の現状

- ソフトウェア保守業務は、全国平均で開発業務の3～4倍、金額にして年間合計7兆円の大きさです。
- それにも拘らず、これまでほとんど実施方法の改善が行われずに、昔ながらの人海戦術で業務が実施されています。
- その結果、ほんのわずかの改修に大きな時間と費用がかかり、改修作業の不備でたびたび障害を起こしています。
- そのため、改善者にとって「宝の山」状態です。

2. 改善した場合の期待効果

- そこで、以下の対策を講じると、3年で現在の業務は半減、5年で3分の1にできます。
- その浮いた工数で、現在は先送りになっているビジネスを支援する機能拡張・改良等を実施することができます。

2. 1 短期的効果（3年以内に実現）

- 目的・ねらいの明確化 …… 15%
- 障害削減対策の実施 …… 10%
- 作業の自動化 …… 20%
- 保守インフラの整備 …… 10%

2. 2 中長期的効果（3年以上で実現）

- 保守インフラの整備 …… 10%
- システム部門の保守機能強化（測定不能）

3. 対策の内容

（1）まず第1は、「目的・ねらいの明確化」です。

- これは当社のオハコテーマです。
- 保守の依頼者はあまり深く考えずに「こういうことができればいいかな」という程度で依頼している案件もかなりあるのです。

- J U A S の調査でも、「ユーザビリティ変化」「担当者要望」「業務方法変化」という理由の案件が全体の半分近くを占めています。

- これらの案件は、「どういうことなのですか」と探求することによって当初の要望が変更になる可能性があります。

- それでも、多くの企業では、一つ一つの案件はたいして大きくないこともあり、担当者の要望がそのまま通ってしまいます。

- そこで、すべて案件について「これは何のために変更するのですか？」と探求すると費用対効果の観点から別の方法で対応した方がよいと分かたり、内容を変更するという事になったりします。

- これを徹底しましょう、という対策が1番めです。あるシステム部長は、このことによって2割のコストカットが可能だ、と言っておられます。

（2）障害削減対策の徹底実施

- 障害対策はほぼ完全に実施済み（それでも障害は発生する）という企業とまだまだ対策強化の余地が大きい企業と、ばらつきがあります。

- J U A S の調査では、保守工数の25%が障害対応であるとなっています。

- 障害が半分になれば、保守工数の10%以上が浮く計算になります。

- 障害が起きなくなるようにする対策は、非常に多くあります。この一つずつを地道に実施していかないと障害の撲滅はできません。

- 寄稿文では、各保守プロセスでの障害対策の優先度等を示しています。

- これらの対策と並んで有効な基本対策として、障害発生状況の見える化（どのグループのどのような障害が多いのか）を勧めています。

- これを行うと、各組織が自律的に障害削減対策を実施し、「目に見える効果」が各社で実現しています。

（3）ツール活用による作業の自動化

- 現状の保守業務では、ツールの利用率は極めて低い状態で、竹やりでゲリラと戦っているようなものです。

- 保守プロセスで大きな工数がかかっているのは、影響範囲調査（この変更・修正はどこに影響するかを見極めること）とテスト（間違いなく変更・修正が行われていて余計なことをしていないことの確認）です。

- そこでこのプロセスにツールを導入して、作業の自動化を行います。有効なツールが存在することをご紹介しています。
- 特に、影響調査ツールは、影響調査が省力化されるだけでなく、影響調査の精度が高くなりますので、後のプロセスすべてに好影響を与え、保守の全体工数が半分になったという事例も報告されています。

(4) 保守インフラの整備

- 保守業務のインフラとは、以下のものを指します。
 - a. 保守に必要なドキュメント（資料）の整備
 - b. そのデータベース化（リポジトリ化）
 - c. データマネジメントの整備
- 多くの保守業務担当者は、プログラムソース以外は何も頼りになるものがない状態で業務をしています。「必要な情報はすべて頭の中にある」という状況です。
- このため、仕事の習熟に時間を要し、「業務が属人化している」と言われています。
- こうなっている原因はいろいろありますが、あらためて、保守に必要なドキュメントを決定して（開発用のドキュメントとはかなり異なるのです）それを整備するのです。
- この作業は結構大変ですので、一念発起しないと取り組めません。
- 必要ドキュメントが整備できたとしても、便利に使えるのでなければ、じきに使い物にならなくなってしまいます。
- 便利に使える仕掛けがリポジトリ化です。寄稿文ではそのポイントを示しています。
- 次いで、データマネジメントの整備です。
- 情報システムはデータの処理ですから、基本となるデータの定義や取扱いが標準化されていなければ、その基盤が揺らぎ、まともな処理ができるわけがありません。
- この整備も時間と労力がかかり、日本企業は遅れています。寄稿文では、整備すべきという問題提起に留めています。

(5) システム部門の保守機能強化

- 現在のシステム部門およびその代理人である情報子会社は、経営に対してまともに責任を果たしているとはいえないのではないかと、ではどうすればよいのか、という非常に重大な問題提起をしています。
- 中途半端な記述は誤解を生みますので、ここではこれ以上述べません。日経コンピュータ誌をご参照ください。
- それでも言葉足らずですので、このブログで改めて解説させていただきます。

以上、かなり長くなりましたが、半年以上の醸成期間のかかった寄稿の概要紹介をさせていただきました。

大事なことは冒頭の「ソフトウェア保守業務の経営貢献を高めましょう！！」です。

皆様と一緒にその実現を目指してさらなる努力を続けたいと思っています。

325	津曲公二さんの「坂の上の雲」名言集は素晴らしい！！
No.52	2013年1月

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- 「坂の上の雲」から何を学べるかを再確認していただく。
- 「坂の上の雲」の別の楽しみ方を知っていただく。
- 過去の偉人の言動から今あらためて学ぶべきであることを確認していただく。

ねらい：

- 「人生に役立つ『坂の上の雲』名言集」を読んでいただく。
- 現在の日本の危機を何とかする方策を考えていただく。



だいぶ前に津曲さんから、あるご縁でいただいた「人生に役立つ『坂の上の雲』名言集」（津曲公二、酒井昌昭著）をようやく読みました。

二つの意味で非常に感心しました。

一つめは、幕末から日露戦争あたりまで日本の先達には

素晴らしい人たちがたくさんおられたということ。今更ながら再認識したこと。

歴史嫌いの私の不勉強を強く認識しました。

二つめは、津曲さんたちの司馬遼太郎の「坂の上の雲」からの教訓の導き方です。ほんとうに今の日本にぴったりの教訓が満載です。

例えば、こういう感じです。

常識のウソ

以下は著者の文章です。

この部分だけでも当書を読む価値があると思いました。

常識とは、単なる一つの見解くらいに考えた方がよい。多くの人知ってはいるが、自然界の摂理や法則とはまったく違うものである。常識を鵜呑みにするのは危ない。

大国ロシアと戦争をしたら小国日本は勝てない」というのが当時の常識だったが、これを避けて通れない日本は常識を鵜呑みにしなかった。

「意思あるところに道あり」日本は勝てないまでも負けないためのさまざまな算段をして常識を覆した。

それから100年以上経った現在、日本は少子高齢化で衰退するという「常識」がはびこっている。少子高齢化自体は事実だろうが、果たして衰退はどうか？

「常識のウソ」の例示はこういうものです。

日露戦争で、203高地や旅順要塞を陥落させた重砲陣地の移動を実現した児玉源太郎満州軍総参謀長の判断。それを据え付けるには1個のビルを作るほどの基礎工事を必要とすることを命じています。

常識は「そんな無茶なことできない」でしょう。「それはできません」という現場の声を聞いていたら実現しません。児玉はその声が出ることを知っていてあえて命じているのです。できるかできないかではない、必要なのだから実現しなさい、ということなのです。

児玉さんはこう言っているらしいです。「(専門家は専門バカ) 専門家のいうことをきいて戦術の基礎をたてれば、とんでもないことになりがちだ」

原発事故の時に、「専門家」がたくさんテレビに登場しました。原子炉の専門家に、放射性物質の拡散や放射性物質の健康被害のことなどを質問していました。答えられるわけがないでしょう！

テレビのキャスターたちは、専門家なら何でも知っていると思っているようでした。

暮も迫ってきましたので、残念ながらあまり多くをご紹介します。

以下に津曲さんたちが挙げられた教訓の言葉だけを列記します。私も改めてまたゆっくり読んでみようと思います。

- 常識を覆すのは素人（軍事戦略の世界では素人も玄人もない）
- 教科書や論文にこだわるな
- 主体性を持てば自分のものにできる
- ハラをくぐれば事は進む（ほんとうにそうです）
- ちょうどよい目標を見つけて与える
- さばく技術とこなす技術がある

- 具体的な成功イメージを描く
- 人がやらないところを開拓する（そうですね）
- 全体感が上司を動かす
- 画期的商品は発想の転換から
- 開拓者の努力が現場を支えた
- 明文・美文に大きな意味があった（「天気晴朗なれど浪高し」）

ひらけた国家のありがたさ
スーパーマンを使える人になる
整理と整頓を区別する
現場では臨機応変の処置もとれる人（が大事）
小差は大差
陥りやすい錯覚
上手に見切ることは千両に値する
現場でできることから始める

- 目的と手段を混同しない
 - わかってみれば実はかんたんなことだ
 - 経験は積み、固定概念は捨てる
 - 内輪を巻き込むにはまず目標を共有する
 - 白紙の状態から考える大切さ
- (この塊りは「ほんとうの目的にせまる」という章で私の年来の主張の根幹思想です)**

- 次に起こすアクションを見える化する
- 徳のある人材こそが発展の必要資源
- 人心をまとめるには信賞必罰は重要
- WHATが先、HOWは後
- 失敗を味方にして成功への足がかりに
- 自ら判断し行動できるリーダー

- 相手の魂胆を知って作戦に乗ることも必要
- 「そのとき義経すこしも騒がず」
- 天の運と人間の力で開く運
- 外国人から見ても圧倒的な人格（乃木希典）
- ポジティブな情動が混乱を救う
- 自分なりの原理原則をうちたてる
- 不要不急のものは大胆に切り捨てる
- 自ら使命を課して自ら行動する

- 思いがあれば行動に移せる
- 指示されたとおりに動けばよいか？
- 現場に行けば真実がわかる
- ワンマン体制を突破するには
- 日ごろの訓練・鍛錬で捨て身がいきる
- 精神基盤の共有でルールに血が通う
- 自国の良き伝統を知る。
- 礼の気持ちは万国共通

こういう教訓は、ほとんどが「あたりまえ」というものですが、過去の日本を支えてくれた偉人の事例で示されると「そうか!」と納得のいくものです。

そこから行動までは、まだ間（あいだ）があって、それを埋めるのが「何かの力」です。「何か」にはいろいろあります。他人だったり、自分の厳しい経験だったりでしょう。

最後に考え始めてみました。当然ながらまだ答えは出つくしません。

これまで2度の危機を乗り越えた日本がなぜ、現在の国家存亡のこの危機を認識しないのでしょうか。

1. ゆでガエル状態である

過去の2回の危機（黒船襲来と敗戦）は急激な変化でした。誰も認識できることです。ところが、今の危機は徐々の変化です。危機が直接見えません。実感できない人が多いのです。

2. 分権が不十分である

みな自分のことなら必死で考えるでしょう？失業とか病気とか。家族のことも、ふつうは考えます。近所の環境のことは？考えますね。

ところがだんだんその範囲を広げて国のこととなると何とかしてくれるだろう、自分が何か言っても通らないし、と考えてしまいます。

その点からすると、日本を一つの行政で動かそうというのは無理がありそうです。
橋下さんたちの言われる地方分権が必要でしょう。道州制のさらに下への分権も重要だと思われます。

明治維新で強かったのは、それまでの幕藩体制が基本的には地方分権で地域ごとに真剣に考える人が育っていたからだ、ということを経験で学びました。

地方は国で必要とする人材の養成機関でもあるのです。

3. 教育

戦後の教育は考えさせる教育をしていない！
これはかなり指摘されていることです。
戦後の一時、日本古来のものはすべて捨てさせられて昔話、お伽話もすたれました。
これらは貴重なケーススタディで、そこから基本的な人生訓を学ばせています。

さらにその際に「どうしてそれがダメなのか」も考えさせるようになっていきます。
最近孫娘の相手をしていて、そのことが分かるようになりました。

男の子が夢中になるゲームはどうですか？
ゆっくり考える力を失わせているのではないのでしょうか。

とにかく、物事を考えなければ、危機は感じないでしょう。
原発は何が悪いか、なぜ必要なのか
物価が下がるデフレはなぜ悪いか
なぜ中国は怖いのか

さいごに
津曲さんも述べていますが、
高齢化社会はピンチではなくチャンスです。
高齢化社会のモデルを作る知恵はないのでしょうか？
それができれば世界にそのモデルを提供できます。

少しずつでも考えて行きたいものですね。